



まさに、学びの余白を。



シブヤ大学

SHIBUYA UNIVERSITY
NETWORK

2024年度活動報告書

なぜ都市に 「学びの場」が必要か？

シブヤ大学がつくる、日常と地続きの学びの場

私たちは今、どこで暮らし、どのように働き、どんな価値観で生きるのか、自分の意志で選択しやすい時代を生きています。

しかし、選択肢が広がった分、「自分はどう生きたいのか」が分からず、立ち止まってしまう人も少なくありません。

SNSの情報に不安になってしまうことも、競争社会のプレッシャーから漠然とした焦りを感じてしまうこともあります。

「SNSを通じて常につながっているはずなのに、社会との距離を感じてしまう」

「目の前のやるべきことに追われ、立ち止まる余裕がない」

そんな気持ちを抱いたことがある人は、少なくないはずです。

日々の選択や行動に対する「納得感」や「自己決定感」が少ないこと

——それは、現代を生きる多くの人に共通する感覚かもしれません。

そんな中、近年は「学び」がより身近なものになりつつあります。

仕事と両立しながら大学院に通ったり、キャリアブレイクを取って国内外の

「大人の学びの場」に留学する人も増えてきました。

しかし、まだまだ立ち止まることに寛容ではない社会で、多くの人が足踏みをしてしまうのも現実です。

だからこそ、渋谷のような都市にも、暮らしの中で気軽に参加できる

「日常と地続きの学びの場」が必要なのではないでしょうか？

シブヤ大学の考える「学び」とは、単に知識を得ることだけではありません。

対話を通して自分の考えや価値観を見つめ直し、アップデートしていくこと。

そして、普段の肩書きや役職を脇に置いて、自分自身に「軸」を戻すためのきっかけです。

シブヤ大学は、そんな「わたし」に戻るための学びの場を、都市の一角にひらき続けています。



VISION
実現したい社会

- ・大人が楽しそうな社会
- ・違いがあってもみんなが自由に生きていける豊かな社会



MISSION
シブヤ大学が果たすこと

自分の意志に基づいた選択や行動が社会に影響を与えることができると信じて大きく考え、小さく行動する人にとっての学び場をつくる。

日々の暮らしに、学びの余白を～シブヤ大学から始まる変化～



このイラストは、日々の学びの場で生まれた個人の小さな変化が、

どのように社会につながっていくのか、その広がりの可能性を表したものです。

シブヤ大学では、一人ひとりが「自分の問い」に出会い、他者との対話を通して新たな気づきを得る機会をつくることを大切にしています。

個人が得た内面の変化は、外から見えずらいものです。

しかし私たちは、それぞれの変化や気づきを家庭や職場、地域などのコミュニティに持ち帰ることで、日常に小さな変化が起きると信じています。

学びを通じた個人の小さな変化が、社会の変化につながっていくこと

——それが、シブヤ大学の変化の理論（セオリー・オブ・チェンジ）です。



Chapter
2

授業で出会った、 「学び」が生まれた瞬間

料理からデモクラシーまで——シブヤ大学の授業では、多様なテーマや人との出会いを通じて、自分を再発見したり、新しい世界を知るきっかけが生まれています。

日々どんな対話が交わされ、どんな気づきが生まれているのか、シブヤ大学が出会った「学び」の瞬間を紹介します。

参加者の声

内面で起きた「小さな変化」の記録



自分の生活圏の外の人と相手だったので、身内に**話しづらいこともスムーズに開示**できた。



みんな興奮して、ワクワクして話していて、そういう人と話せたのが**楽しくて心地よかった**。



すぐに答えを出すのではなく、**じっくり考える**こと、より具体的に掘り下げることを増やしていきたいと思いました。



知識も得られたが、それ以上にグループワークで**参加者の方と意見交換**できたのが楽しかった。



自分のことをあらためて考えることができました。客観的な意見をいただくことで新たな発見が多々ありました。



10年振りのシブヤ大学でしたが、楽しく参加できました。仕事で東京を離れていたのですが、**東京に戻ってきたなあ**と実感できました。



年齢も性別も異なる人が集まっていましたが、同じものに興味を持って、皆が真剣に話に耳を傾けていることに平等さを感じ、同時に**学ぶ姿勢に好奇の目を向けられない安全性**を感じた。



スタッフの方に子どもを別室で見守って、一緒に遊んでいただきました。育児と学びの両立を諦めてしまうことも多かったのですが、こうして**1人の母の知見を積み重ねる道**を開いて下さり、ありがとうございます。

2024年度実績

授業数 40 講座	参加者数 668 人	先生数 70 人	教室数 12 教室
累計 1,593 講座	累計 46,223 人	累計 1,545 人	累計 356 教室

2024年度授業一覧

テクノロジー ・メタバースのある新しい日常を想像しよう～体験型ワークショップ～	デザイン ・多木陽介さんと読む『プロジェクトシスタの控えめな創造力』
情報 ・スマホ時代のクリティカルシンキングを鍛えよう！	食 ・スバイスと歩む半生
健康 ・しなやかに生きるために～姿勢がひとを整える～	地域・まちづくり ・あなたの「気になる」を考現学的に体験してみよう！ ^①
国際 ・はじめてのアイリッシュ・セットダンス ・表参道で開かれるセントパトリックスデー・パレードを知っていますか？	防災・災害 ・はじめよう！わが家の防災～非常食用米をおいしくアレンジ！～ ^② ・カジュアル防災講座 ～防災の新しいトレンド、備えない防災「フェーズフリー」を知ろう！～
宗教 ・マイ・リトル・ブッダをつくろう！ ～仏教の考え方を日常に活かしてみる～、～人付き合い編～、～お仕事編～ ^③	歴史・伝統 ・「今夜は、無礼講。2024」～お座敷あそびは奥が深い！～ ^④ ・「料亭三長」を聴く・読む・語る ・ようこそ江戸怪異の世界～現代に通じる人間らしさ～
生きかた・働きかた ・哲学とデザインで探る「わたし」と「社会」のつながりかた ^⑤ ・ようこそシブヤ大学へ！ゆっくりと語り合う夜 ～韓国・江華島“カンファユニバース”の物語～ ・Ideas Worth Sharing ～高校生による、はじめてのTEDx体験～	社会科学 ・言葉を紡ぐ～ 90年代生まれが会った沖縄～ ・ネガティブケイパビリティを鍛えよう！～答えを急がないためのワークショップ～ ・今宵はSocial Book Cafe ～「社会を語る場」のつくりかた～ ^⑥ ・啓発ことばってなに？～「変な日本語」への違和感に迫る～
環境 ・つながる料理教室 ～ブラウニーづくりで島豆腐屋さんの抱えるフードロス問題を学ぼう～ ・森からはじめる一日 ～明治神宮100年の森で米作り体験～ ^⑦ ～明治神宮100年の森でどんぐり畑のお世話体験～ ・「衣」と「食」で考える～共存する暮らしとは～	文化・文学 ・人生は演劇だ！～インプロから考えるコミュニケーション～ ・映画から世界とつながる、世界が広がる～新しい映画の楽しみ方～ ・ボードゲームを仕事にする生きかた ・アクティブ朗読のすゝめ～詩(うた)の世界を演じてみる～ ^⑧ ・閉店したN(エヌ)広場をアップサイクルした八王子のものがたり ・マードーミステリーの魅力
ダイバーシティ&インクルージョン ・【シリアスゲームであそぼう！】 ゲームで体験する「超」高齢社会 ^⑨ 不自由な世界をゲームで体験、「共生社会」を考えよう	・ソーシャルファームを知って、考えて、動きたくなるワークショップ 2024 【第1回】世界のソーシャルファーム、日本のソーシャルファーム 【第2回】さまざまなソーシャルファーム 【第3回】ソーシャルファームのリアル(働く人の目線から) 【第4回】ソーシャルファームのリアル(雇う人と支える人の目線から)



あなたにとって シブヤ大学とはどんな場ですか？

シブヤ大学はみんなでつくる学びの場です。

参加者、ボランティアスタッフ、寄付サポーター、シブヤ大学をつくる仲間たちの声を集めました。

なんだかいいね^^

絶妙なスパイスの調合具合というか、からいもあまいも、美味しくしてくれる人たちが集まっている感じがすかね笑。(ボランティアスタッフ)

希望

同時代の課題をいち早くキャッチし、思いつきではなく、ちゃんと考えた上で、他の人と共有できるかたちで提示してくれる貴重な場所です。(サポーター)

学びと出会いの場

高校生のときにシブヤ大学を知り、かれこれ10数年参加しています。いつも新しい発見があり、またいつも出会う人が違い、お話することでまた新たな発見があります。(参加者)

旅先で訪れたゲストハウス

近すぎず、遠すぎずの距離感。でも、なんとなく同じ価値観を持っていて。具体的な約束はしないけれど、「またどこかで会いましょう!」って関係性。(ボランティアスタッフ)

花火

1つの空間にいるのに、個々の想いや背景が次々につなまって、大きな輝きがあちらこちらで生まれていて、ワクワクしたことが、花火大会をみている気持ちと似ていました。(参加者)

「素」の自分の解放区

日頃の役割や肩書を意識せず、「何のためになるの?」のような「意味」とか考えずに、単に興味あるのでよくて説明も要らない、そんな風のように軽やかな居場所が心地良いと感じます。(ボランティアスタッフ)

そこにあることで いつも誰かの日常に安心感を もたらせてくれている場

毎月さまざまな授業に、きっと世の中の誰かがふと気になって参加し、普段の日常と違う空気を他の参加者やゲストに感じ、新たな自分に気づき、少し元気になって帰っていき、日常に安心感をもたらせてくれているんだろうな。(参加者)

学びのワンダーランド

みんなが自由に議論して学びあい、教えあう場所です。それはまさに渋谷のスクランブル交差点の如く、学びのワンダーランドだと思います。(サポーター)

まだ見ぬ面白いを実現できる場所

まだ知らない面白い、新しいものを知ることができるだけでなく、自分でも提案、実現できる機会と事務局のサポートがあります。(ボランティアスタッフ)



シブヤ大学noteにて、▶
集まった声を全編公開中!



境界を超えて —日常から広がる学びのフィールド

渋谷のまちを舞台にした活動



笹塚十号のいえ共同運営

まちにひらかれた学びと交流空間

笹塚十号通り商店街の八百屋の跡地に誕生した、「屋根のある公園」をコンセプトに誰でも自由に過ごせる地域の居場所。シブヤ大学をはじめ、福祉作業所、高齢者福祉、フードバンク、大学などの10団体で共同運営しています。人々の暮らしに寄り添う商店街の中の小さなパブリックスペースを、授業の「教室」や交流空間として活用しています。

シブヤ大学事務局移転

渋谷と世界をつなぐ交流拠点

より地域に根差した活動を行いながらも、今後は地方や海外の団体と渋谷をつなげる都市のハブとして活用していくべく、渋谷区本町の一軒家に拠点を移しました。都会の喧騒から離れ、ローカルな雰囲気を味わえる空間にこだわりました。



フードパントリー事業

身近な地域課題への取り組み

拠点を地域に開く活動の一環として、月に一度、ひとり親世帯や生活困窮世帯へ食料をお渡しする活動をスタート。ボランティアスタッフが中心となって、食品の仕分けや受け渡しを行い、2024年度は7回の食料提供を実施しました。身近な地域課題を自分ごとで捉え、小さなアクションにつなげる機会となっています。



18周年特別授業

問い続ける、自分と社会の関係性

「忙しい日常の中でも自分らしく生きるための時間を大切にするには?」「社会と関わっている実感を持つには?」といった等身大の問いをもとに、自分と社会の関係性を問い直す周年授業を実施し、69名の方にご参加いただきました。その時々のニュースや社会情勢をスピーディーに取り上げる授業だけでなく、いつの時代も変わらず考えていきたい普遍的な問いを投げかけることも、シブヤ大学の役割だと考えています。



国境を越えて生まれる学びとつながり



ユネスコ学習都市会議

ASEAN+3 Regional Learning Cities Conferenceへの出席

ユネスコが推進する学習都市(Global Network of Learning Cities : GNLC)へのバンコク市の加盟をきっかけに、タイのバンコクで行われたユネスコ学習都市の国際会議に、渋谷区として出席しました。パネルディスカッションでは、未来の学校プロジェクトや、シブヤ大学、笹塚十号のいえの事例などを発表しました。

国際交流プログラム

カンファユニバース(韓国・江華島)との協働

韓国・江華島で、忙しい日々から離れ、自分自身を見つめ直す滞在型のプログラムを実施するカンファユニバースの皆さんが来日。合同授業や意見交換会、教育・まちづくり団体の皆さんとの交流会を行いました。都市部の若者が抱える社会的孤立や社会への無力感、競争社会や情報化社会に対する疲弊感など、共通の課題も多い韓国との交流を通して、自分たちの活動の価値を見直す貴重な機会となりました。



ともにつくりあげる学びの場

学ぶ・つくる・支える～シブヤ大学との多様な関わり方～

シブヤ大学には、「学生」「ボランティアスタッフ」「寄付サポーター」

といった関わり方があり、それぞれの役割は固定されていません。

サポーターが学生として授業に参加したり、ときにはスタッフが授業の先生になることも。

誰もが自由なかたちに関わりながら、学び手とつくり手の垣根を越えた、

ひらかれた学びの場がつくりられています。



運営体制

多様な授業が生まれる仕組み

シブヤ大学は、多くのボランティアスタッフ（通称：ボラスタ）と、少数の事務局・理事会によって運営されています。

さまざまな背景を持つボラスタの興味から授業が生まれ、企画から運営まで、ボラスタが中心となって手がけています。

大切にしているのは

「自分が学びたい授業をつくること」と

「つくることを通して学ぶこと」。

事務局・理事会は、その思いをかたちにするサポート役をしています。

参加者・先生・スタッフが学びあい、ともにつくりあげる。

それが、シブヤ大学の学びの場のあり方です。



「つくる人」たちの声

わたしがシブヤ大学に関わる理由



榎 歩美

以前から学生として参加していたものの「ボラスタの役割は私には無理そう…」と数年間尻込みしていました。その後、周年授業で出会ったステキな先輩ボラスタから「私は授業つくったことないけど、ゆるく関わっているよ」と聞いて、それなら私も！と勇気を出して飛び込みました。自分が心から大切だと思うテーマについて、授業の企画・実施・振り返りの過程で**多くの人と言葉を交わすと、人生が豊かになる気がします**。また、授業で参加者の方がこぼした感想や、ボラスタが初めて授業を企画したときの表情から、それぞれが一歩踏み出した瞬間を感じられるのも嬉しいです。

2006年、シブヤ大学の開校式に参加したのが関わるきっかけでした。以降毎月のように授業に参加しているうちに、趣味でやっていた蓄音機の授業の先生をすることに。今は主に授業を企画する授業コーディネーターとして活動中です。授業づくりの面白さは、**超個人的な興味や好奇心が授業になり、同じ感覚を持つ方たちが教室で出会う場をつくれること**や、およそ無理そうな場所に行けたり、人に会えたりすることです。例えば、世界的な難工事といわれた渋谷の工事現場に潜入する授業や、大ホールの舞台上で、世界的なバレリーナが眼前で舞う姿を見る授業などを企画しました。

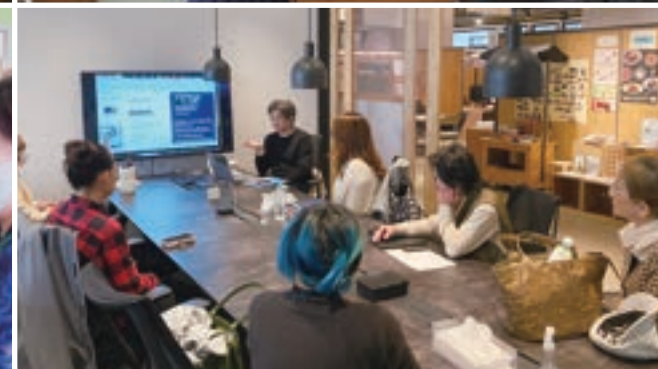


佐藤 隆俊



安西 仁美

2020年にコロナ禍でオンライン授業を受講し、この時の学びや気づきが鮮烈で、シブヤ大学に関わってみたいという気持ちになりました。コーディネーター、スタッフ、学生といったその時々自分に相応しい立ち位置になれる自由度にも共感しました。現在は、栄養士のキャリアを活かして、ときに授業の先生として、ときに授業以外の交流の場で“食”担当として登場することが多いです。一方的な知識提供をしようとしていない授業づくりの姿勢が、やりがいや面白さになっているのだと思います。活動のすべてが対話となり、1人の中にあつたものが他の人にもじわっと拡がっていく、その過程で**人と人とのつながりができていくところが魅力であり、大きな学び**となっています。



Chapter
6

社会をともにつくる 多様な協働のかたち

シブヤ大学は、企業、行政、大学、NPOなど、さまざまなパートナーと協働しています。

「誰に、どんな価値を提供したいのか」

「自社の強みを活かし、どのように地域に貢献したいのか」

といった根本的な問いを深めながら対話を重ね、学びのテーマを紡ぎ出します。

そうしてつくられた授業の場では、単なる協働先や教える側といった立場を超えて、

「ともに学ぶ一人」として参加することで、新たな視点や気づきを得ていきます。

ひとつの視点では見えないことも、異なる強みを持つ人たちが集まり、

立場を超えて対話することで、新しい答えや道が見えてくるはずです。

「こんなことを一緒に考えられないだろうか？」

「自分たちの資源や強みを生かして、社会にどんな価値を提供できるだろうか？」

そんな問いをお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ一度お話ししてみませんか。

所属や立場を超えて、ともに社会をつくる新しい仲間との出会いを楽しみにしています。

2024年度コラボレーション事例

株式会社渋谷サービス公社

社会教育館講座

協働内容 渋谷区の社会教育館の運営管理を行う株式会社渋谷サービス公社と協働し、社会教育館講座年間23講座の企画・運営を行っています。

担当者の声

渋谷区民の生涯学習に寄与する講座の企画・運営を行う中で、**時世を反映した多様なテーマの講座を行い、若い方が参加され活気に満ち溢れている**シブヤ大学と協働することで、新しいカタチの講座を生み出せるのではないかと考えました。シブヤ大学は、学びを強制されたり技術を身につける場所ではないのに、なぜ貴重な時間を費やし集まるのだろうと不思議に思っていたのですが、協働する中で、ささやかな「知りたい」「学びたい」の望みをもって参加されている方が多いことを知りました。講座の中での笑い声や拍手、講座終了後の満足された人々の顔を今後も見続けられるよう、協働を継続発展させていきたいと考えています。



一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント

渋谷のラジオでDJ体験

～シブヤ大学と一緒にまちびらき取材ツアー～

協働内容 大規模建築物の開業などの節目に合わせ、官民協働で新たな渋谷を発信する「SHIBUYAまちびらき2024」の一環として、小学生とその保護者を対象としたイベントを開催しました。

担当者の声

渋谷駅前エリマネ事務局を務める東急不動産の紹介で、2020年度以降協働を続けてきました。2021年度～2023年度には、「しぶやをつくるゼミ」を共同開催し、一般来街者の方々から渋谷のまちに関する課題や期待について意見を聞く機会を設けることで、今後の渋谷駅再開発のまちづくりに活かせるのではないかと考えました。2024年度に行った小学生向けのツアーでは、「しぶやをつくるゼミ」の卒業生3名に、これまでのゼミで学んだ渋谷駅周辺再開発エリアの案内役を担当していただきました。参加者への広報も含め、シブヤ大学で募集いただくことで、**渋谷駅周辺再開発の進捗や意義を一般の方々にも知っていただき**、とても有意義な機会になったと考えております。



東京都

誰もが働ける社会をつくる ソーシャルファームを知って、考えて、動きたくなるワークショップ 2024

協働内容 東京都が進める、就労に困難を抱える方が必要なサポートを受け、他の従業員とともに働いている社会的企業「ソーシャルファーム」の創設及び活動の促進に向けて、昨年度に引き続き全4回の授業を実施しました。

担当者の声

ソーシャルファームを知ってもらう、そのきっかけとなる活動を展開する上で、日頃から人に学びの機会を提供しているシブヤ大学のご経験やノウハウを活用させていただくため、ワークショップ運営のご協力をいただきました。ソーシャルファームの本質を深く理解してくださったので、イベントの趣旨もしっかりと把握いただき、テーマ・内容の選定や実施方法について、**都民の方々の関心を惹く、大変魅力的な企画**をいただきました。ご参加の皆様からも好評を得て、非常に有意義なワークショップを開催することができました。



慶應義塾大学サイバーフィジカル・サステナビリティ・センター(CPSセンター)

メタバースのある新しい日常を想像しよう

～体験型ワークショップ～

協働内容 「アバターを安全かつ信頼して利用できる社会の実現」を目指す慶應義塾大学CPSセンターからの依頼を受け、体験型のワークショップを行いました。ワークショップは、CPS研究会の一環としてJSTムーンショット型研究開発事業JPMJMS2215の支援を受けて実施しました。

担当者の声

アバター・VR体験会をこれまで複数回、学生向けに主催してきました。さらにより一般の人、特に**普段は先端デジタル技術に馴染みのない人の声を聞きたく**、シブヤ大学にイベント運営業務を委託しました。そもそも馴染みのない人がなぜこのイベントに参加したいと思ったのか、サイバー空間であってもフィジカル空間同様に、人が何を求め期待しているのかなど、社会受容を考える上で**非常に新鮮で率直な参加者の声**に耳を傾けることができました。





これからのシブヤ大学へ — 目指す社会の実現に向けて

授業を無料で届けるために — ご支援のお願い

シブヤ大学は2006年の開校以来、授業を無料にすることにこだわり続けてきました。
参加しやすいことで、年齢や立場を超えた思いがけない出会いや広がりが生まれると考えているからです。
こうした場を継続・発展させていくためには、財政的な支えが不可欠です。
皆さまからのご支援は、毎月の授業の企画・運営をはじめ、
新規プロジェクトの立ち上げや、運営体制の強化など、
目指す社会の実現に向けて、大切に活用させていただきます。
日頃からご支援いただいている皆さまに心よりの感謝を込めて。
そして、これからの応援も、どうぞよろしくお願いいたします。

2024年度寄付のご報告

法人サポーター：1社



株式会社トライアンフ

私たちは人間の多様性を味わい、社会で起こる様々な出来事に接して自ら考え動く機会をつくること、人材育成の本来の姿ではないかと考えています。その中で、シブヤ大学のミッションと、自ら学ぶ場を生み出す姿勢に共感しました。今後もシブヤ大学の活動を通じて、新たな発想のヒントをいただけることを楽しみにしています。

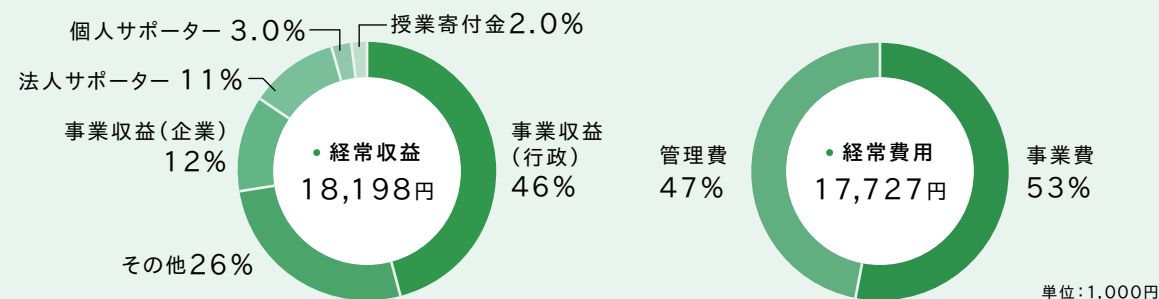
TRUNK (HOTEL) CAT STREET様より、2024年度寄付先団体に選定いただきました。

個人サポーター：18名

寄付サポーター制度の詳細は
こちらをご覧ください。



2024年度会計報告



学長メッセージ

日常にひらかれた“学びの広場”を

2020年にリニューアルし、2代目学長に就任してから5年が経ちました。新型コロナウイルスの蔓延と同時に新たなスタートを切った当初は、日々の暮らしが一変し、先の見えない中での手探りの始まりでした。しかし今では、さまざまなかたちでシブヤ大学に関わる皆さんとともに、その時々々の等身大の問いを掲げながら、少しずつ「今の時代に自分たちがほしい学びの場」をかたちにしてこられたと感じています。

この冊子をつくるにあたり、「あなたにとってシブヤ大学とはどんな場ですか？」という問いを、関わる皆さんに投げかけました。私にとってのシブヤ大学は、「ヨーロッパのまちの広場」のような存在です。まちの中心にあって、多様な人がふらっと立ち寄り、去っていく。忙しい日常の中で、誰もがほっと一息つけるような空間。ベンチでおしゃべりをしたり、昼寝をしたり、コーヒーを飲んだり、楽器を奏でたり。それぞれが思い思いに過ごしながらも、ときには知らない人同士の井戸端会議が始まったり、偶然の再会があったりする——そんな場所です。

常に変わり続ける渋谷のまちで、シブヤ大学が皆さんの日常に寄り添う“広場”のような存在になれていたら嬉しく思います。

最後に、皆さんと一緒に考えたい問いを投げかけたいと思います。

「今、日々の暮らしの中でどんな時間がほしいですか？」

「少し立ち止まって、ゆっくり考えてみたいことはありますか？」

「これから、どんな社会をつくっていききたいですか？」

これらの問いに、急いで答えを出すことはしたくありません。

自分の環境や時代とともに移ろう自分なりの答えを、シブヤ大学に参加する皆さんと時間をかけて見つけていきたいです。シブヤ大学で生まれる小さな変化が、日常の変化へ、そして社会の変化へとつながっていくと信じて。

これからも、「わたし」を主語にした自分軸の学びを大切に、忙しい日常の中で少し立ち止まり、自分自身や社会とのつながりを取り戻すきっかけとなるような学びの場を、皆さんとともにつくっていけたら嬉しいです。

シブヤ大学学長
大澤悠季



シブヤ大学のご案内

これからのシブヤ大学を一緒に作りませんか？

あなたの参加をお待ちしています。

「ちょっと気になる」「何か関わってみたい」—そんな気持ちを抱いてくださった皆さまへ。

シブヤ大学には、授業への参加はもちろん、企画・運営に関わるボランティアスタッフや、活動を支える寄付サポーターなど、さまざまな参加のかたちがあります。

また、企業・自治体の皆さまについては、

コラボレーション・協賛に関するお問い合わせフォームをご案内します。

自分らしい関わり方を、ぜひ見つけてみてください。

シブヤ大学に参加したい方へ	企業・自治体の皆さまへ	各種SNS
学生として 授業に参加する 	コラボレーションの お問い合わせ 	HP  X 
ボランティアスタッフ としてつくる 	法人サポーター 	Instagram  Facebook 
寄付サポーター として支える 		note 

シブヤ大学2024年度活動報告書

法人名 | 特定非営利活動法人シブヤ大学
(英文表記 SHIBUYA UNIVERSITY NETWORK)

設立日 | 2006年9月7日

所在地 | 〒151-0071 東京都渋谷区本町5-22-1

E-mail | info@shibuya-univ.net

代表理事 | 左京 泰明

理事 | 伊藤 剛 (asobot inc. 代表取締役)
飯田 優子 (株式会社キャンプフォー 代表取締役)
大澤 悠季 (シブヤ大学学長 兼任)

アクセス | ・京王新線「幡ヶ谷駅」徒歩16分
・都営大江戸線「西新宿五丁目駅」徒歩14分
・京王バス[宿32・宿33・宿35]系統
「弥生町三丁目」徒歩5分
・ハチ公バス(春の小川ルート)「本町五丁目」すぐ

